

漢検 ジャーナル

2011年
春号

漢検
ジャーナル

Vol.3 2011年 春号

東北地方太平洋沖地震により被災されたみなさまに心からお見舞い申し上げます。

CONTENTS

2 **教育トーク**
日本の未来・漢字の未来
 —科学者が語る漢字を学ぶ意味—
 日本科学未来館館長
毛利 衛氏

6 **特集**
日常生活の中で
漢字を楽しもう

漢字の意味を知ること
 イメージは大きく広がります
 女優
村井 美樹 さん

漢字を学びの入り口に
 ～漢字を学ぶ機会は
 日常生活にあふれています～
 中部大学准教授
深谷 圭助氏

11 **日本漢字能力検定 問題抄録**
 (10級・9級・8級・7級・6級・5級・4級・3級・準2級・2級・準1級・1級)

19 **日本漢字能力検定 標準解答**

20 **漢検受検者の声 ～いま、私が漢字を学ぶ理由～**
 日本漢字能力検定 1級合格者発表
 平成22年度第2回受検データ

22 **漢検トピックス／漢字クイズ**

23 **文化人・教育者が語る私の一字**

24 **Information**



平成23年4月1日発行 発行：財団法人 日本漢字能力検定協会 〒600-8585 京都市下京区烏丸通松原下る五条烏丸9町398 発行人：高坂節三
 「漢字検定」漢検「今年の漢字」は登録商標です。 Copyright © 2011 The Japan Kanji Aptitude Testing Foundation. All rights reserved.



【桜(さくら)】
 バラ科の落葉高木の総称。春、白色や淡紅色の花を開く。ソメイヨシノ、シダレザクラ、ヤマザクラなど種類も多い。日本の国花。春の季語。旧字体は櫻。(参考：『漢検 漢字辞典』)

**平成23年度版
 過去問題集発行**
**1年間の学習成果を
 チェック!**

平成22年度に実施した実際の検定問題を収録した『漢検 過去問題集 平成23年度版』を発売しました。級別に1冊(1級と準1級は2級分で1冊)になっており、検定前の総仕上げにご活用いただけます。詳しくは全国の書店にお問い合わせください。

漢検CBT
パソコンで漢検を受検!
 漢検CBTとは所定の会場でコンピューターを使って漢検(2級～7級)を受検するシステムです。合格すると従来の漢検と同じ資格を得られます。

※実施日と開始時間は会場によって異なりますので、漢検ホームページでご確認ください。

家族受検表彰制度
**家族で勉強!
 みんなで合格!**

家族受検表彰制度とは、家族で受検して合格された場合に、個別の合格証書に加えて、合格者全員の名前が入った「家族合格表彰状」を授与する制度です。2名から申請できますので、ぜひご家族で漢検に挑戦されてはいかがでしょうか。

Information

協会からのお知らせ

平成23年度(2011年度)「日本漢字能力検定」日程

個人受検(受検をお考えの皆様へ)

	検定日	会場	実施級	受付開始日	申込締切日(協会必着)
第1回	平成23年 6月19日(日)	公開会場	1～10級	平成23年 3月1日(火)	平成23年 5月20日(金) ※書店受付は平成23年5月17日(火)まで
第2回	平成23年 10月23日(日)	公開会場	1～10級	平成23年 7月1日(金)	平成23年 9月22日(木) ※書店受付は平成23年9月16日(金)まで
第3回	平成24年 1月29日(日)	公開会場	1～10級	平成23年11月1日(火)	平成23年12月22日(木) ※書店受付は平成23年12月19日(月)まで

団体受検(学校・塾や企業での実施をお考えの皆様へ)

	検定日	会場	実施級	受付開始日	申込締切日(協会必着)
第1回	平成23年 6月4日(土)	準会場	2～10級	平成23年 3月1日(火)	平成23年 5月6日(金)
	平成23年 6月10日(金)	準会場	2～10級		平成23年 5月10日(火)
	平成23年 6月19日(日)☆	公開会場	1～10級		平成23年 5月20日(金)
第2回	平成23年 7月8日(金)	準会場	2～10級	平成23年 7月1日(金)	平成23年 6月8日(水)
	平成23年 8月23日(火)	準会場	2～10級		平成23年 7月22日(金)
	平成23年 10月23日(日)☆	公開会場	1～10級		平成23年 9月22日(木)
	平成23年 10月28日(金)	準会場	2～10級		平成23年 9月28日(水)
	平成23年 11月5日(土)	準会場	2～10級		平成23年 10月5日(水)
	平成23年 11月11日(金)	準会場	2～10級		平成23年 10月12日(水)
第3回	平成24年 1月27日(金)	準会場	2～10級	平成23年11月1日(火)	平成23年12月22日(木)
	平成24年 1月29日(日)☆	公開会場	1～10級		平成24年 1月5日(木)
	平成24年 2月4日(土)	準会場	2～10級		平成24年 1月11日(水)

個人受検について

- 「公開会場」は、当協会または当協会と特別に提携した機関が一般の受検者のために設けた会場です。
- 受検をお考えの方は、全国の漢検取扱書店、漢検ホームページ、携帯電話、ローソン(Loppi)、セブン-イレブン(マルチコピー)、ファミリーマート(Famiポート)、サークルKサンクス(カルワザステーション)からお申し込みください。協会または取扱新聞社などへ直接お申し込みいただくこともできます。

団体受検について

- 「準会場」は、設置条件を満たしている学校や団体が自ら設けた団体受検の会場です。志願者が10人以上いれば、準会場として漢検を実施することができます。
- 日曜日実施の準会場(☆の日程)は、公開会場の検定時間に準じて実施してください。

※平成23年4月1日現在

日本の未来・漢字の未来

科学者が語る漢字を学ぶ意味

本コーナーでは、当協会理事が、国内外で活躍されている有識者と対談し、教育やことばをテーマにお話を伺います。

宇宙への憧れと35歳での挑戦

池坊 毛利さんの2度にわたる宇宙でのミッションの成功は、私たち日本人にとって大きな喜びでした。「将来、宇宙飛行士になりたい」と思った子どもたちも多かったのではないのでしょうか。毛利さんご自身は小さいころ、どのような夢をお持ちでしたか。

毛利 私は「鉄腕アトム」が大好きで、その中に登場するお茶の水博士のような科学者に憧れていました。アトムを作ったのは天馬博士という天才科学者ですが、彼はアトムを愛することができずに手離してしまいました。それに対してお茶の水博士は、「アトムを社会に役立つロボットにしたい」という考えを持ち、アトムに優しく接しました。子ども心ながらに「将来、こういう科学者になりたい」と思いましたね。

日本科学未来館館長
毛利 衛 氏



撮影/宮原一郎

池坊 宇宙飛行士を目指すようになられたのはいつごろでしょうか。

毛利 1961年、人類は初めて有人宇宙飛行に成功しました。私と同世代の方は、みなさん感動した出来事だったと思います。中学生だった私は、「地球は青かった」というガガーリン船長の言葉に強い衝撃を受けました。宇宙から地球がどう見えるのか、誰も知らなかった時代です。「地球が青いってどういうことなのだろう」と宇宙に想いを巡らせ、憧れるようになりましたね。しかし当時はまだ、日本人が宇宙飛行士になる術はありませんでしたし、それまで宇宙飛行士になった日本人はひとりもいませんでしたから、私は科学者になって核融合の研究をする道に進みました。

その後、私が35歳のとき、日本の宇宙開発事業団（NASDA、現JAXA）が初めて宇宙飛行士を募集したのです。そのときの日本人宇宙飛行士の任務は宇宙で実験を行うことでしたから、実験と宇宙が好きで私は迷わず応募を決めました。

池坊 募集記事をご覧になったときは、どのような気持ちになりましたか。

毛利 ガガーリン船長の言葉を聞いたときのワクワク感が甦ってきて、応募するだけで本当にうれしかったです。

2年近くをかけて第1次から第4次までの試験を受けました。毎回、「次は無理だろう」と思いましたが、結局、最終

メンバーに残ることができました。日本で最初の宇宙飛行士試験でしたから、知識や技術だけでなく、とても細かな医学検査も行われましたね。それをクリアできたのは、体が丈夫だったおかげだと両親に感謝しています。

目標に向かって邁進する

池坊 スペースシャトルの搭乗科学技術者に選ばれたのは1985年ですが、実際に搭乗されたのは1992年です。その間の訓練はとて厳しいものだったのではないのでしょうか。

毛利 訓練が厳しかったのはもちろんですが、何よりもつらかったのは、1986年のスペースシャトル「チャレンジャー号」の爆発事故によって、ミッションの継続が危ぶまれたことでした。仮にミッションが継続されたとしても、私が予定通り搭乗者に選ばれるかどうか分からず、混沌としてきたのです。

池坊 そのような状況下で訓練を積んでいくことは、精神的にもつらかったと思います。「日々の努力が実らなくなってしまうのではないかと」と、不安に思うことはありませんでしたか。

毛利 「実るかどうか」ではなく、「それでもやるしかないんだ」と考えていました。一度夢や目標を持ったら、それに向かって邁進し、自分のベストを尽くすしかないと思います。



池坊 結果を残すことはもちろん大切ですが、そこに至るプロセスも大切にしなければならぬということですね。それは、プロセスを大切にしない限り結果も出せない、ということでもあります。

毛利 おっしゃる通りです。われわれの訓練は行動のすべてが採点されます。日々の訓練ひとつひとつにベストを尽くして、それが積み重なって結果につながっていくのです。

また、宇宙飛行士の世界は競争の繰り返しであると同時に、協力やチームワークの世界でもあります。向井千秋さんと土井隆雄さんは私の後にスペースシャトルに搭乗しましたが、私が宇宙に出たときに地上で交信し、支えてくれたのは彼らなのです。ずっと一緒に訓練してきた競争相手ではありますが、お互いの強みや弱みを理解していて、心から分かり合える仲間でもありました。

日本の国旗を背負う重さ

最終的にはミッションが3つ与えられて全員が宇宙に行くことができたので、本当に良かったと思っています。

池坊 2回目の宇宙飛行のとき、毛利さんはおいくつでしたか。

毛利 アメリカ航空宇宙局（NASA）に行ったのが48歳で、2度目の搭乗は52歳でした。実は、1回目のスペースシャトルの搭乗はベイロードスペシャリスト（搭乗科学技術者）という立場で、NASAから見ると本物の宇宙飛行士ではなく、いわばお客さんのような扱いだったのです。その後、私は日本の宇宙飛行士の室長（旧・宇宙開発事業団宇宙環境利用システム本部宇宙環境利用推進部有人宇宙活動推進室長）になったのを機に、「日本人のプライドにかけて、NASA

日本科学未来館館長
毛利 衛氏

1948年北海道生まれ。1985年、宇宙開発事業団（NASDA、現JAXA）宇宙航空研究開発機構より、合金作製や生命化学などの実験を行う、第1次材料実験のペイロードスペシャリスト（搭乗科学技術者）として向井千秋氏、土井隆雄氏とともに選出される。1992年、スペースシャトル・エンデバー号に日本人科学者として初めて搭乗。2000年には、ミッションスペシャリスト（搭乗運用技術者）として再び搭乗し、地球陸地の立体地図作製のためのデータ取得など、さまざまなミッションを行う。同年10月、日本科学未来館初代館長に就任。



が認める正式な宇宙飛行士の資格を取らなければならぬ」と考えました。苦労するのは承知の上で、ゼロから挑戦しました。そして2000年のエンデバー号には、ミッションスペシャリスト（搭乗運用技術者）として搭乗することができたのです。

池坊 毛利さんの実績は、後に続く日本の宇宙飛行士にとって力強い支えになりますね。やはり、「日本を背負っているんだ」という気持ちは強かったのですか。

毛利 日本は国際宇宙ステーションのプロジェクトに参加していますが、「NASAから格下に見られていては、日本としては良くないだろう」と考えていました。また、最初に宇宙に行ったときに、「日本の代表で来ているのだ」という国旗の重さを強く感じたこともあり、「日本人としてのプライドを示さなくては」とも思いました。

池坊 同じ日本人として、とてもうれいお話を聞かせていただきました。

「理科離れ」の解釈と背景

池坊 ここからは教育をテーマにお話を伺います。日本科学未来館の館長を務められている毛利さんのお立場では、最近よく言われる子どもたちの「理科離れ」は大変気になることだと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

毛利 「理科離れ」とは、大人が自分た

その人の母国語になるのです。

池坊 言語はその人のアイデンティティであり、その国の文化ですからね。コミュニケーション手段としての英語は、今後はますます必要になると思いますが、まずは母国語である日本語をしっかりと理解し、日本語で自らの考えや想いを表現できるようにすることが大切ですね。

毛利 私は中央教育審議会の専門委員として、一昨年、小学校での英語教育に関する議論に参加しました。その際、「外国語の勉強は、日本語できちんと自分の意見を表現できるようにして、はじめて理解が進むものである」と述べました。小学校での英語必修化を推進する方のお話を聞くと、「ビジネスに役立つから」という発想が多いんですね。でも、それは学校教育の視点とは少し違うような気がします。

池坊 先日、世界を相手に事業を展開し、成功している若手の起業家たちとお話をする機会がありました。みなさん英語が堪能かという実はずいぶんでもないです。英語はあくまでコミュニケーション手段のひとつであって、英語ができるからビジネスで活躍できるとは限りません。むしろ、自分なりの揺るぎない信念や使命感こそ、世界で活躍するためには必要だと感じます。

毛利 同感です。義務教育の責務は社会に出て活躍するための下地作りですが、「日本人として社会に出て活躍するため

ちの責任を転嫁するために作った言葉だと考えています。子どもを中心に考えていけば、「離れる」という言い方をするはずがありません。子どもはいつもニュートラルで、大抵の子どもは自然や身の回りの現象に好奇心を示すものです。ですから、「理科嫌い」が起きているのではなく、「理科嫌いの子どもが増えている」というのが正しい捉え方だと思います。それは、学校教育がどこかで道を間違えてきた結果かもしれません。

池坊 確かに各種調査を見ても、小学生の多くは理科が好きですね。子どもたちがもともと持っている、好奇心や豊かな感性を引き出す教育が求められているのでしょうか。

毛利 そのためには、理科の好きな先生が理科のおもしろさを子どもたちに伝えていくことがとても大切です。ところが今の制度では、大学で理科を専門的に学ばなくても小学校の先生になれることがあります。教員養成課程の根本的な見直しが必要かもしれません。

中学生以上の子どもたちについては、受験勉強の要素が増すほど、「理科嫌い」になっていく傾向があります。ですから先生方には、単に知識としての理科を教えるのではなく、理科がどのような場面で役に立つのかという、もっと本質的なところを、上手に子どもたちに伝えてほしいと思います。

池坊 保護者の意識についてはいかがで

しょう。子どもたちの情熱や探求心を伸ばせる家庭環境が大事だと思いますが、保護者はどうしても目先のことに囚われてしまう傾向にあります。

毛利 保護者は10年後、20年後に何が大切なのかを考えて、子どもに接する必要があると思います。それに加え、「自分が充実した人生を送っているかどうか」「日々幸せを感じているかどうか」も子どもに大きな影響を与えていることを、強く自覚してほしいと思います。なぜなら子どもたちは、親が感動したことに対して同じように感動するように、親の背中を見て成長していくからです。

池坊 親が充実した日々を過ごして、それを子どもに見せていくことが大事なのですね。

母国語を学ぶことの意味

池坊 毛利さんは英語圏で生活していた期間が長いわけですが、母国語である日本語に対してはどのようなお考えをお持ちでしょうか。

毛利 「日本人である限り、日本語を大切にしなければならぬ」と、私は考えています。たとえば、「桃太郎」や「金太郎」といった昔話や寓話を常識のように知っていて、はじめて日本語が母国語になると思います。子どもの中には意識していませんが、さまざまな知識や経験の積み重ねがあって、ようやく言語は

には、何が必要か」を突き詰めると、小中学校では徹底的に国語を教えるべきでしょう。日本語の習得度は、理科を含めたいろいろな分野の理解度を左右するからです。

漢字が果たしつる役割

毛利 漢字検定がこれだけ広まったことで、日本人の漢字に対する知識レベルは確実に上がったと思います。池坊さんは協会の理事として、これからどういった活動に力を入れようとお考えですか。

池坊 漢字は日本語の入り口であり、日本語能力の基礎です。私は読書が人間形成には絶対に必要だと信じており、成には絶対にも必要だと信じております。書きができることが必要です。漢字を学ぶことで読書への抵抗もなくなります。

そしてその結果、漢字の持つおもしろさや読書の楽しさ、文章で表現する喜びを子どもたちにも知ってほしいと願っています。今後は、正しい日本語を使って自分の考えを文章で表現する能力の向上を図る活動にも、注力してまいります。

毛利 漢字は英語やフランス語と異なり、字を見るだけでイメージーションが湧きます。ところが、同じ漢字を使っている中国では漢字の簡略化が進み、字面から意味がイメージできない漢字も増えています。

池坊 その点は、私も残念です。ただ、



日本科学未来館

住所 東京都江東区青海 2-3-6
電話 03-3570-9151
開館時間 10:00～17:00
(入館は閉館30分前まで)
休館日 火曜日
(ただし祝日、春・夏・冬休みを除く)
12月28日～1月1日
入館料 大人600円、18歳以下200円
(団体8名以上 大人480円、18歳以下160円)
※特別展示観覧は、別料金の場合あり。

<http://www.miraikan.jst.go.jp/>

！現在、臨時休館中。開館時期については、ホームページをご確認ください。

におけるリーダーシップを発揮する時代に移りつつあります。それは科学や文化の領域にも言えることで、今、世界はアジアに期待しています。そうした流れを踏まえると、漢字は世界で重要な役割を果たしうると私は思っています。日本はアジアの大国である中国と同じ漢字を持つ国だということが、有利に働く局面が今後出てくることでしよう。世界に貢献するという観点から、ぜひ漢字教育を豊かにしてほしいと思います。

池坊 世界的に活躍されている科学者の方から漢字に関する貴重なご助言をいただき、とても心強く感じました。本日はありがとうございました。

日常生活の中で漢字を楽しむもう

春号の特集は「日常生活の中の漢字」をテーマに、女優村井美樹さんのインタビューと、中部大学准教授 深谷圭助先生に教えていただく。日常の中の漢字学習法[※]をお届けします。少し視点を変えるだけで、これまでとはひと味もふた味も違った漢字の魅力に出合えるはずですよ。

漢字の意味を知ること でイメージは大きく広がります

漢検1級の資格を持つ女優 村井美樹さんに、漢字を楽しく学ぶコツを伺いました。

女優

村井美樹さん



1979年京都府生まれ。2002年早稲田大学在学時に、ミス早稲田キャンパスアイドルコンテストでグランプリを受賞。同年、テレビドラマに出演し女優デビューを果たす。近年はクイズ番組などにも出演し、番組の企画で漢検1級にチャレンジ。見事1回で合格した。漢字に強い才女として人気を集めている。

「漢字が得意かも」と思ったのは最近のこと

「初めに、村井さんの漢字との出会いをお聞かせください。」

小学生のころから国語が大好きでした。漢字の書き取りの練習も進んで行っていたくらいで、漢字を覚えることに苦痛を感じたことは一度もありませんでした。高校で日本史を選択したこと、大学の第二外国語に中国語を選択したことも、昔から漢字に対して親しみを感じていた私としては、自然なことだったと思います。

でも、「私って漢字が得意かもしれない」と思い始めたのは、実は最近のことなんです。テレビのクイズ番組のオーディションを受けたとき、自分でも驚くほど漢字の問題が解けたんです。そこで自分の実力を試したくなって、漢検の準1級を受けようと決めました。本格的に漢字の勉強に取り組んだのは、そのときが初めてです。2009年の冬に受験し、合格することができました。

その後、1級にも挑戦されましたね。準1級の受験に向けて勉強を始める

と、知らない漢字やことばがたくさん出てきて「難しい！」と思う一方、漢字に対する興味も湧いてきました。1級に合格したのは2010年の夏でしたが、準1級の勉強とは比べものにならないほど苦労しました。「本当に日本語なの？」と思うような漢字もありましたし、実際、電子辞書を引いても出てこない漢字もありましたね。あの時期、私の日常生活には漢字があふれていました。落語を聞いても「鮑鬩斗^{※1}」とか「子は銚^{※2}」とか、耳にすることはすべてが漢字で頭の中に飛び込んでくるんですよ(笑)。買い物に行って野菜を見ても、「キュウリは、胡瓜^{※3}」って書くのよね」というような毎日でした。

漢字を勉強したことで、
台本の理解が深まりました

漢字をよく知っていることが、仕事上で役立つ経験はありますか。

最近うれしかったのは、時代劇の台本に出てきた「攫^{※4}われる」という漢字をスラッと読めたことですね。漢検の勉強を



村井さんを
最も悩ませた漢字は…

勉強をする中で、村井さんが最も手こずった漢字は「くじ」だったそう。部首は「門(たたかいがまえ)」で、画数は26。音読みは「キュウ」。『大漢語林』によれば、もとは「たたかって取る」という意味の字でしたが、古いに龜(亀)を用いていたことから「くじ」の意味も含むようになったようです。「どこからどう書いていけばいいかわからない」と村井さんを困らせたほどの覚えにくい字は、過去に漢検1級で出題されたこともあります。

してなければ、おそらく読めなかったと思います。普段、漢字辞典を持ち歩いているわけではありませんが、以前の私なら「この字、何て読むの？」とスタッフにこっそり聞いていたと思います。時代劇に限らず、脚本家の先生の中には、難しい漢字を好んで使う方がいらつしやいます。おそらく漢字のほうが心情や情景を的確に表現できるからだと思います。たとえば、「歯^{※5}にもかけないわ」というセリフが書いてあったとします。演じる側は、単に「その漢字が読めるか読めないか」を超え、漢字のイメージが頭にあることで、セリフや場面に対する理解度がまったく違ってくるのです。私はこれまでたくさん漢字を覚えてきました。台本を読む上で、それが大きな強みになっていますから、漢検の勉強をして本当に良かったと思います。

「確かに漢字は表意文字ですから、意味をきちんと理解して覚えることは大切です。」

豊かなことばを私も
受け継いでいきたい

「村井さんは漢字のおもしろさをどのようなところ感じますか。」

私は読書が大好きで、特に大正から昭和初期にかけての小説をよく読みます。当時の作品で見られる漢字の使われ方などは、とても興味深くておもしろいですよ。たとえば、「ポンプ」は「唧筒^{※4}」、「オルガン」は「風琴^{※5}」という漢字が当

てられています。そして、「風琴」に「口」がつけば「口風琴^{※6}」、「手」がつけば「手風琴^{※6}」です。ウィットに富んだセンスの良さと、ことばの美しさを感じますね。「浪漫」という当て字を考えたのは夏目漱石だと言われていますが、ロマン主義が流行っていた当時の時代の空気をよく表している気がします。昨年、その夏目漱石の『吾輩は猫である』を読み返したところ、当たり前のように漢検1級レベルの漢字が使われていました。高校生のころに読んだときは漢字の使われ方などまったく意識していませんでしたが、漢字を知ってから読み返すことで新しい発見がたくさんありました。漢字の使い方ひとつにも作家のセンスを感じますし、ひとつの漢字から伝わってくるイメージも広がります。本当に、昔の人は感性が豊かだったんだと驚きます。私も日本人として、その感性を受け継いでいきたいと思っています。

最後に、漢字を学ぶ読者に向けてエールをお願いします。

私の漢検1級受検は個人的な挑戦だと思っていました。ところが、たくさんの人たちから「私がんばります」というメッセージをいただき、実は私だけの挑戦ではなかったのだと今は感じています。

漢字の勉強は身の回りにたくさんヒントが転がっています。一度覚えた漢字も使わないと忘れてしまいますから、いろ

いろな場面、そこそ日常生活の中で漢字を思い浮かべて使うことが大切です。たった一文字からストーリーや世界が広がっていくのが漢字の楽しさですから、書きながらその成り立ちを意識したり、熟語や当て字になぜその漢字が使われているのかを想像したりすると、覚えるのが楽しくなると思います。

漢字を学ぶことは決して難しいことではありません。一生付き合う漢字ですから楽しく学びたいものです。

※1 アワビの肉を薄くはいて伸ばし、乾かしたもの。お祝いの気持ちを表すために進物に添えるようになった。現在の「鬩斗」の元の形。
※2 「銚」はふたつの柄をつなぎ止めるために使う金具のこと。子に対する愛情が銚になぜ、夫婦の縁がつかない保たれるという意味。
※3 さわめてよく似ていて、漢字のないことば。
※4 林業学「晩在」から「彼は昔の彼ならず」(新潮文庫)
※5 林業学「風琴」と魚の可「漢貨の書」(新潮文庫)
※6 「何でも読める難漢字辞典」(三省堂)



村井さんが漢検1級の勉強のために作ったノート。「書かないと忘れてしまうので書いて覚えるようにしたのですが、結果的にこのノートが私の辞書になりました」(村井さん)。

身近なものを漢字にしてみよう

国語の教科書を離れ、漢字ドリルも使わずに、親子で漢字学習に取り組んでみましょう。
少し視点を変えるだけで、あらゆるものが学びの素材になります。

1 漢字と実物を結び付ける

身の回りのことばを漢字にしてみよう!

冷蔵庫の中にある食材の名前を漢字にする学習法です。時間に余裕がある場合は、おうちの方が漢字を使って「本日のお品書き」を作ってみるのも楽しいでしょう。食材や料理名は、子どもが興味を持ちやすい素材です。また、これらに限らず身の回りには、漢字と実物がきちんと結び付くため分かりやすく、漢字学習にはぴったりと言えます。

問題

次の漢字はいずれも食材の名前ですが、それぞれ何でしょうか?

蓮根 南瓜 蒟蒻



2 好きなこと、好きなものを漢字にする

全国のおもしろ駅名も学びのきっかけに!

インタビューにご登場いただいた村井美樹さんは、鉄道や旅行が大好き。そんな趣味の世界でもたくさんの漢字に出会い、さまざまなことを学んだそうです。たとえば、島根県の「美談」駅は村井さんのお気に入り。「美談」と書いて『みだみ』と読みます。どうしてこの字を当てるようになったのか、そこにはきっと何かストーリーがあるはず。それを想像しながら旅するのもロマンチックですね。(村井さん)。

問題

次の漢字は大阪市営地下鉄にある駅名ですが、何と読むのでしょうか?

喜連瓜破



3 会話の中のことばを漢字にする

カタカナやひらがなのことばを漢字にしたら...

ごく普通の会話の中で使っていることばでも、漢字にすると思わぬ発見があったりびっくりすることがあります。たとえば「ビックリ」は、漢字では「吃驚」と書きます。『漢検 漢字辞典』によると「吃」には「ことばが支える」という意味がありますから、「驚いてうまくことばが出てこない状態」という意味の漢字を当てたと解釈できます。このように漢字の当て方も、漢字のおもしろさを知るきっかけになります。

問題

深谷先生は今回の取材中、自分が口にした「たまげる」ということばが気になって、すぐに辞書で調べました。では「たまげる」は、漢字でどう書くのでしょうか?



答えは次のページへ! 漢字の楽しさが見えてきます

「漢字とは努力して覚えるもの」「漢字学習はつらいもの」、そんなふうには思っていないかもしれません。もしそう思っているとしたら、それはただひたすら反復練習を繰り返してきたために、漢字のおもしろさに気付かなかつたからかもしれません。深谷先生は漢字学習のポイントを次のように話します。

「漢字学習といえば、ドリルや練習帳を使った書き取り練習をイメージする方が多いと思いますが、苦しいだけの漢字学習は、ひたすら耐えるばかりのダイエット法に似ています。長続きはしません。漢字をきちんと身に付けたいのであれば、毎日楽しんで続けられる学習法を見つけていくことが大切です」

それでは、漢字を楽しく学ぶにはどうすればよいのでしょうか。深谷先生はこう続けます。

「テスト前の漢字の暗記は苦しいだけです。しかも、すぐに忘れてしまいます。それは、漢字とその漢字が表すものが結び付いていないからだと思っています。最も効果的な学習方法は、日常生活の中にある漢字を意識し、毎日眺めることによつて、自然にその漢字を覚える方法です。村井美樹さんから漢検1級に合格された方は、日常生活の中で漢字を学べる仕組みを作っていました。それは、

「つまり、漢字学習を国語の勉強のひとつとして捉えるのではなく、漢字を日常生活の中で学ぼうというのが深谷先生の提案です。たとえば、スポーツを通して「競走」や「野球」という漢字を学ぶこと、音楽を通して「演奏」や「音符」という漢字を学ぶこともその例です。あるいは、桜の花を見て、漢字辞典で「桜」の意味を調べ、日本の国花であることを



中部大学准教授
深谷圭助氏

小学校教員時代、小学校1年生に国語辞典を与えてあらゆる生活の場面で辞書を引くことを勧め、自ら調べて考える教育を実践する。「辞書引き学習法」と呼ばれる独自の教育方法は、その後、子どもたちの自ら学ぶ力を引き出し、育てる画期的な指導法として注目を浴びる。立命館小学校校長を務めた後に現職。「なぜ辞書を引かせると子どもは伸びるのか」(宝島社)など著書多数。

身の回りに漢字はたくさんある!

自分の趣味や生活を見渡してみると、漢字で表されるものがたくさんあります。

スポーツ

競走、野球、懸垂、
応援、接戦、打率

音楽

演奏、音符、楽譜、
吹奏楽、交響楽

暦や節句

節分、端午、夏至、
彼岸、冬至、晦日

もっと詳しく! 「辞書引き学習法」

気になる言葉が出てきたら、すぐに辞書で調べる学習法。調べた言葉のページに付せんを貼ることで、子どもたちは「これだけたくさんの言葉を知っている」という達成感を持つことができます。深谷先生がこの学習法を実践したところ、子どもたちは言葉を学ぶ楽しさを知り、主体的に学習する姿勢が生まれたそうです。



漢字学習の機会が国語の授業だけでは限りません。漢字学習にちょっとした気付きと工夫を加えれば、楽しみながら効果的に漢字を学ぶことができます。「辞書引き学習法」という自学自習の画期的学習法を生み出した深谷圭助先生に、日常生活の中での漢字学習についてお話を伺いました。

漢字を学びの入り口に 漢字を学ぶ機会が 日常生活にあふれています

答え

辞書を使えば、漢字の世界が深まる、つながる、広がる

前ページの3つの実例を読んでいただければ、日常にある身近なもので、楽しみながら漢字を学べるということがお分かりだと思います。実際に、辞書を使って調べると、ひとつのことはへの理解が深まるだけでなく、ほかのことはや漢字への興味がどんどん広がっていくはずですよ。

それでは、前ページの問題の答えと、そこから「深まる」「つながる」「広がる」漢字の世界を紹介します。

1 食材の名前は「れんこん、かぼちゃ、こんにゃく」。

漢字と実物を結び付けて覚えると、学習の効率がグッと上がります。たとえば「蓮根」は「蓮」の実ではなく、水中の泥に埋まっている「根（正確には地下茎）」の部分なのでこういう字を書きます。「南瓜」は漢字を見ただけで「瓜」科の植物だということが分かり、「西瓜」や「胡瓜」「糸瓜」などと同じ仲間だと連想できます。また、「蒟蒻」に「+（くさかんむり）」が使われているのは、こんにゃくの原料が植物のこんにゃくいもの地下茎だからです。このように辞書を引くと、いろいろと豆知識が増えていきます。

2 大阪市営地下鉄の駅名は、「きれうりわり」。

「喜連」と「瓜破」という、二つの地名が合わさった駅名とされています。駅名や地名は読み方を知ること、日本の地域を学べる教材にもなります。ところで、村井さんが最も感激した駅名は、福島県の会津鉄道にある「塔のへつり」駅だそう。「広辞苑」によると「へつり」は「莖」と書き、「断崖や川岸などの険阻な路」を意味します。村井さんは、「この漢字は、山の中の険しく細い道を表すために昔の人が考えた字だと思うのです。そんなことに思いを馳せると、感慨深いものがあります」と語っています。

3 「たまげる」は「魂消る」。

「たまげる」を「魂消る」と書き表すということは、魂が消えてしまうほどの驚きが表現されているのかもしれない。ちなみに、「驚」という字は、「敬」の部分が「驚いて上を向く」という意味を持っていて、全体としては「馬が驚いて棒立ちになっている状態」を表しているのだそうです。魂が消えてしまうほどの驚きと、馬が棒立ちになってしまうような驚きでは、どちらがショックの度合いが強いのでしょうか。このように、漢字の成り立ちやことばにその漢字が当てられたストーリーを想像すると楽しくなります。

知る。漢字辞典で旧字体の「櫻」を見て、どのような成り立ちなのかと想像する。さらに、「桜」に「桃」を続ければ「桜桃」となり、「さくらんぼう」になるんだなと発想を広げる。——こうした何気ない日常の場面から得られる漢字トレーニングの積み重ねが、漢字に親しむコツというわけです。

幸いなことに、漢字は身の回りにいくらかでも転がっています。みなさんも身近にあるものや趣味・スポーツなど、興味があるものを思い浮かべてみてください。そして、そこではどのようなことばが使われているのか、そのことばは漢字でどのように書くのかを考えてみてください。深谷先生は「漢字の学び方はもっと自由でいいし、いろいろな工夫ができるはず」と訴えます。

漢字一字が知の入り口になる

子どもたちは、大人が想像する以上にたくさんしたことばや漢字を知っているのです。深谷先生は具体例を挙げて説明します。

「小学校へ入学したての1年生は、漢字を習っていないにもかかわらず、意外にたくさん漢字を知っています。子どもたちに漢字辞典を与えて、『知っている漢字を見つけてごらん』と言うと、たくさん漢字を見つけてくるのです。」

たとえば、小学校低学年でも『遊戯』が読み書きできる児童はたくさんいます。それは、子どもたちの間で流行っている『遊戯王』という漫画の影響が大きいのでしょうか。このことは、普段の生活と漢字学習が密接に結び付いていることを端的に表しています。

深谷先生は小学校1年生からの辞書引き学習を勧めますが、これは身の回りの漢字や、すでに知っているつもり漢字をより深く理解するために有効な学習法だと述べています。確かに、漢字辞典を引けば、漢字の意味も成り立ちも分かりますし、その漢字を使った熟語をたくさん知ることが出来ます。同じ部首の漢字を関連付けながら覚えていくことも出来ます。そしてひとつの謎が解ければ、「もっと知りたい」「もっと調べたい」という知的好奇心は一層、高まっていくことでしょう。

深谷先生は最後にこうまとめます。「漢字は、知の入り口になります。漢字は一字一字にさまざまな意味や成り立ちがありますから、漢字を通して哲学的な思索に入ることが出来るのです。学校教育では約2000字の常用漢字しか教えませんが、子どもたちにはそれ以外の漢字も知ってほしいですね。また、大人もそうした漢字のおもしろさに気付いてほしいと思います」

漢検 受検者の声

いま、私が漢字を学ぶ理由

漢字は年齢に関係なく学べる身近な学習対象であるため、3歳から101歳という幅広い年齢層の方が漢検に挑戦しています。本コーナーでは、小・中学生、高校生、社会人、一般の受検者の方に「いま、なぜ漢字を学ぶのか」について伺います。

とにかく
たくさん本を読みたい

小学生 4級合格

江戸川区立
第六葛西小学校 6年生
成瀬 瑠納さん



私は4年生のときに7級に初挑戦しました。その後、通っている小学校で漢検を受検できるようになったので、小学校で4級・6級を受検し、合格しました。学校の近くに住んでいるので、学校で受検できるのは便利です。次回の検定で3級にチャレンジしようとして、自分のおこづかいで『ハンディ漢字学習3級』を買いました。

私が漢字を勉強する理由は、とにかくたくさん本を読みたいからです。これまで、本の中で分からない漢字に出会うと、その度にお父さんやお母さんに質問していましたが、「自分で調べたら？」と言われ、自分で辞書を引くようになりました。しかし、読めない漢字が多いと辞書を引く回数が増え、全然先に進まないのです。図書館で借りた本が読みきれません。「それならば、漢字を先に覚えてしまおう！」と思ったのです。

漢検の勉強を始めてから、本を読むときに立ち止まる回数が減りましたし、たとえ分からない漢字があっても推測できるようになりました。その結果、本をスラスラ読めるようになり、最近では難しい本も読めるようになりました。今は1カ月に20冊程度の本を読んでいます。

私の将来の夢は、いつか自分の力で世界一周をすることです。そのためには外国語を覚える必要がありますが、何よりもまず日本語です。日本語を知り、世界中の人に日本語のすばらしさを伝えていきたいです。

生活のいろいろな場面で
役立つ漢字

中学生 3級合格

三郷市立栄中学校
1年生
大谷 祐貴さん



私の通う中学校では「漢字博士になろう！」というスローガンのもと、楽しく漢字を勉強しています。先日は、漢字をパーツに分解して足し算の問題にする「合体漢字」にグループで取り組み、発表しました。これは「替」を例に挙げると、「二十+人+人+日」に分解して出題し、何の漢字かを当てるものです。漢字のおもしろさは、似たような漢字でもパーツが少し違えば、読み方も意味も大きく変わることだと思います。「しめすへん」と「ころもへん」の違いには時々戸惑うこともあります。漢字はますますおもしろくなります。

昨年、お父さんの勧めで漢検3級に挑戦し、合格しました。お父さんからは「気楽に挑戦すればいいよ」と言われましたが、私は「やるからには絶対に合格したい」と思い、サッカー部の練習の後、必ず漢字練習帳に向かうようにしました。今も帰宅後に20分・30分の漢字練習を継続しています。

私が漢字を勉強する理由は、普段の生活のいろいろな場面で漢字が役立つからです。逆に言えば、読めない損をすることからです。たとえば、駅名が読めないと、駅員さんに行き方を尋ねることもできません。そうなる困るのは自分自身です。これからも漢字に限らず、今学ばべきことをきっちりこなしていきたいと思っています。

高校生

2級合格

関西大学第一高等学校
2年生
黒嶋 啓太さん



漢字も弓道も日々鍛錬

私は漢字を通して初めて「勉強が好きだ」と思えるようになりました。新しい漢字に出会うたびに、興味をかきたてられます。たとえば四字熟語や部首の読み方など、普段なじみの薄い分野も楽しく学んでいます。

また、勉強の場だけでなく、部活動の弓道でも難しい漢字にふれる機会があります。たとえば、弓道の基本動作である「射法八節」の中の動作のひとつに「揖」というものがありますが、普通に生活しているだけでは、こんな漢字にはまず出会わないでしょう。きっかけはさまざまですが、分からない字は積極的に調べるようにしています。その中で新たな気付きがあったり、知識が増えていく実感が湧いたりするところが漢字のおもしろさだと思います。

漢検の初受検は小学6年生のとき、塾の先生の勧めで5級に挑戦しました。その後、段階的に取り組み、昨年2級に合格しました。とは言え、特別なことをしているわけではありません。むしろ学校の課題をきちんとするなど、「当たり前」のことを当たり前にやること」が大事だと感じています。それを日々積み重ねることが、漢字においても弓道においても上達の秘訣だと思います。

将来は両親のように常識を備えた尊敬される大人になりたいと考えています。それには漢字を正しく使いこなす素養が欠かせません。今後も意識的に漢字の知識を高めていきたいと思っています。

漢字と語彙は
人生の財産になる

社会人 1級合格

公立中学校教員
生井 健仁さん



私は幼少時代に、父が買ってきた週刊マンガ誌を、意味も分からずページをめくっていました。振り仮名付きであったため、無意識に漢字を覚えたようで、幼くして難しい漢字を書けました。それを周囲の大人にほめられたことがきっかけで、漢字が好きになったのです。

現在、私は教師をしています。13年前に転任した中学校で初めて漢検を受検しました。そのときは、生徒と机を並べて2級に挑戦しました。その後も勉強を重ねて3年前に準1級に合格。1級にも5度目の挑戦でようやく合格できました。その中で、最もうれしかったのは、「私も将来、がんばって先生みたいになりたいに合格する！」という子どもたちがいたことです。

私が漢字を勉強する理由は二つあります。ひとつは、漢字と語彙は人生の財産になるからです。一度身に付けた言葉は、より良く生きるため、より良いコミュニケーションをとるために必ず役に立ちます。もうひとつは、「字は人を表す」と言われるように、世の中には字の巧拙で人となり判断されることがあるからです。漢字は練習すれば、正しく、きれいに書けるようになります。ですから、子どもたちにもぜひ漢字をしっかりと身に付けてほしいと思っています。私自身も子どもたちの手本となるよう、これからも精進していきます。

何歳になっても
挑戦する気持ちを持ち続けたい

一般 7級合格

101歳
井上 美代さん



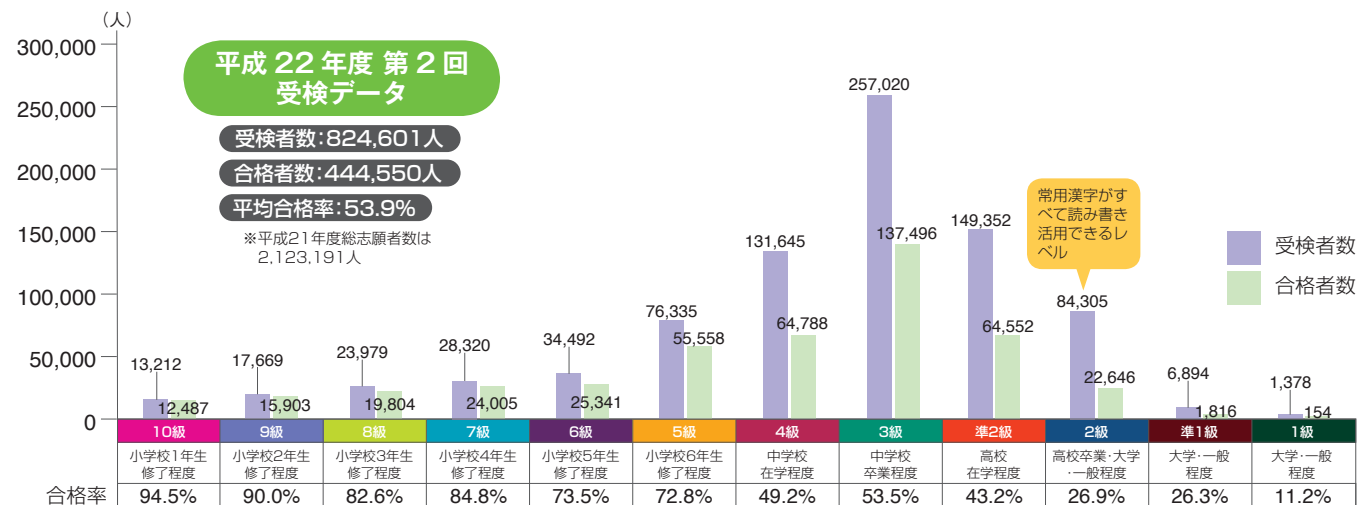
私は今、漢字に夢中です。孫の勧めで漢検に初挑戦したのは、一昨年のことでした。その初挑戦で8級に合格し、101歳を迎えた昨年の秋には7級に合格することができました。

私は書道を好んだ父の影響で、子どものころから字を書くことが好きでした。今もよく漢字をテーマにした本を読んでいます。しかし、いざ漢字の勉強に取り組んでみると、苦勞の連続。なぜなら、私が漢字を習ったのは尋常小学校のころですから、どうしても旧字体で漢字を書いてしまうのです。また、いつもの癖でつい草書体で書いてしまうこともあり、まさに漢字との格闘の日々でした。

実は、万全の準備をして臨んだはずの昨年6月の検定では、残念ながら7級に不合格。8級とは違う7級の出題形式に戸惑ったことが原因でした。「せっかくなので勉強したのだから」とすぐに再挑戦を決め、10月の検定日に向けてまた猛勉強。実際の出題形式に慣れるために「過去問題集」を使って、100回以上模擬試験を繰り返しました。努力の甲斐あって秋の検定では7級の合格証書を得たことができました。

この歳になっても、打ち込めるものがある、目標にできるものがあるというのは、本当に幸せです。次は、漢検6級の合格を目指しています。今年の秋ごろには挑戦できるように、これからまた娘の厳しい指導(笑)を受けながら、自分のペースでがんばります。

※明治から昭和初期までの初等教育機関。



「体の教育」の実践
「体の教育」とは、ことばを声に出して自分の体に埋め込む教育です。お経が好例ですが、私はこの教育が小・中学校で

私の好きな漢字「一」
私の好きな漢字は「一」です。現代ではあまり使われなくなった漢字ですが、江戸時代から明治時代にかけてはよく使われていました。「一」は「腹」「心の中」という意味だけでなく、「精神的な度量」

茶道の真髄は自分をもてなすこと
茶道は「おもてなしの心が大切」と言われます。「おもてなしの心」というと、サービスをしてお客さまに満足して帰ってもらえばよいと考えがちですが、さらに一歩踏み込んだ先に「自分自身へ

生きる方の目標とする漢字「燈」
私の生きる方の目標とする漢字は「燈」です。「燈」には「本質を次に伝承する」と言う意味が込められています。実は昔、「伝統」の「統」は「燈」と書かれていた

※本コーナーは、毎週日曜日9:45～10:00にラジオ関西で放送された「池坊保子の一言一句」の内容をまとめたものです。

本コーナーでは、各界で活躍されている方に「自分を支える漢字一字」などをテーマに、それぞれの人生観・仕事観をお話しいただきます。

日本が一流の国であるために
私は高校生のころ、裁判官を志していました。当時、国による教科書検定の合憲・違憲が争われた教科書裁判があり、「裁判官になって裁判で教育の方向性を決めたい」と考えたのです。

は必要だと考えています。
私は、小学生の指導の際には呼吸法から教えます。まず背筋を伸ばし、お腹をゆったりさせ、お腹の下に手を当てます。その次に鼻から息を吸い、口から息を吐きます。呼吸の際、3秒間吸って2秒間吐きます。そうすることで、気持ちが落ち着いてきますので、子どもたちは静かな気持ちで学習に取り組むことができるのです。

千利休の原点に戻る
茶道と言えば千利休です。彼の最大の功績は、中国の美術品が珍重された安土桃山時代に、日本独自の新しい価値観を創り出したことにあります。たとえば、彼は自然の竹を切り、それを床の間に飾るなど、茶道の道具とは考えられていないものを茶道の道具として見立てるしつらえをしたこともそのひとつでしょう。

自分をもてなし、満足させるのは非常に難しいことです。
他人に対しては嘘やごまかしがきいても、自分にはききませんからね。茶道は自分が「これでよし」と満足してはじめて、お客さまに実践することができずし、お客さまを通すことで、それが嘘やごまかしのきかないものになります。茶道の真髄は他人を通して自分を見つめ直すことにあるのです。



明治大学文学部教授 齋藤 孝さん
(さいとう・たかし) 1960年静岡県生まれ。東京大学法学部卒業。東京大学大学院教育学研究科博士課程などを経て、現職。専門は教育学、身体論、コミュニケーション論。『声に出して読みたい日本語』（草思社文庫）、『呼吸入門』（角川文庫）など著書多数。



茶道家 武者小路千家15代次期家元 千宗屋さん
(せん・そうおく) 1975年京都府生まれ。茶道三千家のひとつ、武者小路千家15代次期家元として2003年、「宗屋」を襲名する。慶應義塾大学大学院修士課程修了(中世日本絵画史)。茶道具のみならず古美術、現代アートにも造詣が深い。

財団法人 日本漢字能力検定協会の活動について紹介します。

過去最高の応募総数！ 2010年の「今年の漢字®」は「暑」



ショ／あつい
部首 日
意味 (1)あつい。気温が高い。「暑気」「炎暑」「酷暑」

(2)あつい季節。特に、夏の土用18日間。「暑中」「大暑」
出典：『漢検 漢字辞典』

Table with 2 columns: Rank and Votes. 1st: 暑 (14,537 votes), 2nd: 中 (5,810 votes), 3rd: 不 (4,721 votes)



漢字一字から広がる世界
当協会では毎年、その年の世相を表す漢字一字を全国から広く募集しています。2010年の応募総数は過去最高の28万5406票で、第1位は1万4537票(約5.1%)を集めた「暑(ショ／あつい)」となりました。そして2010年12月10日に、京都・清水寺の森清範貫主に「暑」の一字を大きく揮毫していただき、その後、「奥の院」のご本尊・三面千手千眼観音菩薩に奉納する儀式を行いました。



新任理事長 高坂節三 理事長
財団法人 日本漢字能力検定協会では、平成23年3月5日の理事会において、理事の互選により高坂節三が新任理事長に就任しましたことを報告いたします。

漢字クイズ 部首編

漢字クイズ 部首編
問1 小学校から高校卒業までに習う常用漢字®は1945字です。その中で最も漢字が多い部首は「氵(さんずい)」で、103字あります。「氵」を部首とする漢字をできるだけ多く書いてみましょう！
例：池
問2 2010年「今年の漢字」が「暑(ショ／あつい)」でした。「暑」の部首は「日(ひ)」です。「日(ひ)または日(ひへん)」を部首とする常用漢字®をできるだけ多く書いてみましょう！
例：晴
※昭和56年内閣訓令・告示の「常用漢字表」による。

「漢検生涯学習ネットワーク」設立のご案内

1級・準1級合格者のみなさまのさらなる学びを支援
漢字・日本語を生涯にわたり学び続けておられる方を支援するため、平成23年4月より「漢検生涯学習ネットワーク」を設立します。「漢検生涯学習ネットワーク」とは、1級・準1級の合格者を対象とした会員制の組織です。毎年各地で漢字や漢字文化に関するセミナーを開催するほか、定期的に通信を発行します。漢検上位級に合格された方たち同士のつながりが持てるチャンスです。漢検ホームページ(http://www.kanken.or.jp/)からご登録いただけます。登録された方には会員証をお送りします。
概要
会員の条件
日本漢字能力検定の1級もしくは準1級に合格された方
入会金・会費
なし(ただし、開催イベントにかかる費用をご負担いただく場合があります)
主な活動(予定)
漢字、漢字文化に関する生涯学習セミナーを年2～3回程度開催予定
定期的な通信の発行(郵送もしくはメールマガジン)
会報誌の発行(会員からの投稿誌)
登録方法
詳しくは協会へお問い合わせください。
財団法人 日本漢字能力検定協会 開発部
TEL: 0120-509-315 (お問い合わせ窓口)
FAX: 075-352-8311 E-MAIL: lifelong@kanken.or.jp

※そのほか、情報誌『漢検ジャーナル』や、日本漢字能力検定協会が開催する各種セミナーやイベントのご案内などをお送りします。
※会報誌などの送付は、基本的に日本国内在住の方のみとさせていただきます。
開始時期：平成23年4月1日より運営

常用漢字表の改定に伴う 日本漢字能力検定の対応に関するお知らせ

平成22年11月30日に新しい常用漢字表が内閣より告示されました。日本漢字能力検定では、新しい常用漢字表に合わせて審査基準を変更し、新しい審査基準に基づく検定を平成24年度第1回検定より行います。なお、平成23年度の各回検定は現行の審査基準に基づいて実施します。平成24年度第1回検定からの新しい審査基準の詳細については、平成24年度の検定日程とともに、平成23年8月ごろ発表します。

※参考：『漢検 漢字辞典』 ※()内は日本漢字能力検定における対象級です。
※部首は『漢字必携2級』(財団法人 日本漢字能力検定協会発行)収録の「部首一覧表と部首別の常用漢字」による。